

この定例会では、議案や市政全般について、各会派を代表して議員6人が代表質問を、また会派に属していない無所属の議員2人が個人質問を行いました。その概要は、次のとおりです。

代表質問

水曜会



熊谷 寿人 議員

24年度予算編成の特徴は

問 24年度は、東日本大震災や急激な円高の影響などで、市税収入の減少と社会保障関係費の増加が見込まれる。①市税収入や投資的経費等の見込みは。②予算編成で力を入れる点は。

答 ①歳入では、固定資産税の減少等により、市税全体で本年度に比べ10億円を超える大幅な減少になると見込んでいる。歳出では

扶助費や社会保障関係費の増加は避けられず、投資的経費については、大規模な基盤整備は一段落するが、必要な事業は、可能な限り財源を確保し着実に推進していく。②本市が将来にわたり発展していくための施策の展開が必要で、一層の施策の選択と財源の重点化を図る中で、持続可能な財政運営を基本に積極的に取り組む。

行財政改革の進捗状況は

問 行財政改革大綱に基づき22年度までに、294億円の節減や1002人の職員削減などさまざまな改革を実施し、新たに生じた財源を子育て支援事業等に充て、市民ニーズに沿ったまちづくりを進めてきたが、成果と今後の取り組みは。

答 10年度から取り組んだ成果は、事務事業の見直しなどで109億円、定員、給与の適正化で126億円の経費削減を図るなど、総額294億円の節減につながり効率的、効果的な行政運営が図られた。23年4月以降は、第4次の大綱に基づき、引き続き行財政改革に取り組んでいる。

広域連携について

問 広域的な課題を自治体間で連携して取り組もうと、(仮称)備後圏域連携協議会を設立することである。①参加自治体は。②今後の取り組みは。

答 ①本市をはじめ、三原市、尾道市、府中市、世羅町、神石高原町と、県境を越えて笠岡市と井原市である。②住民生活でも、日常生活圏や経済圏が拡大するとともに、大規模災害や救急医療など行政区域を越えて広域的に対応すべき課題が増えており、広域的な課題などに自治体間で連携して取り組み、活力と魅力ある圏域づくりを進める。

(仮称)こども発達支援センターの整備は

問 発達障がいに関する医療・療育支援を受けられる公的専門機関として、本市を中心に県東部4市1町が連携し、開設に向け整備に取り組んでいる。①今後のスケジュールは。②運営体制は。③近隣市町との連携は。

答 ①24年度中の供用開始に向け、諸準備を進める。②センターの機能に応じた職種や人員体制の整備に向け段階的に採用を行う。③笠岡市、井原市、世羅町からも参加意向を聞いており、今後、関係市町連絡会議を設置し、事業の円滑な推進について協議を進める。

明政会



桑田 真弓 議員

避難所の運営マニュアルの策定は

問 本市も国・県の動向を見ながら、地域防災計画の見直しに取り組んでいる。避難所の運営マニュアルの策定は地域住民との綿密な擦り合わせが必要と考えるが、その対応は。また、いわゆる災害弱者の声を吸い上げる方法は。

答 避難所の運営マニュアルの見直しを行っている。避難所の運営には地域住民の協力が不可欠と考えており、自主防災組織との意